

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市栗生児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 29,894人（前年度比 101.4%） 平成29年度 29,495人 平成28年度 20,202人 平成27年度 20,790人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 37,284千円（32,716千円） ・ その他市が負担した費用 0千円（0千円） 《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 0千円（0千円）
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II	施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV	サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V	施設固有の基準	児童クラブにおいては、学習タイム、ランチタイム、集会の進行、遊び等、様々な活動を縦割りグループで行っている。年齢の異なる子どもたちが一緒に活動する中で、高学年の意識も変化し、低学年を思いやる心も育っている。新しく開設されたサテライトで実施した「グランドゴルフ」は、高齢者と小学生との交流の機会になるとともに、地域に児童館を知ってもらう機会となり、地域と連携した新たな行事の開催へとつながっている。	18/18

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>今年度、児童クラブ登録児童の大幅な増加に伴い、町内会の集会所を借用して、4月よりサテライトを開設しました。集会所を使用している老人クラブ“くりさんクラブ”より申し出があり、グランドゴルフを実施しました。コーチの方々と温かい交流が図れ、次年度も新たな事業を加える予定です。また、自宅から遠く、児童館を利用できない子どもたちに出前での事業を展開する“デリバリー児童館”でのプラバンづくりは、大好評でしたので、実施を2回に増やしたいと計画しています。</p> <p>近隣の広瀬マイスクール児童館・落合市民センターとの連携事業『親子であ・そ・ぼ！』は、運動遊びや制作等、年3回の多様なプログラムを実施しました。落合地区へのデリバリー児童館のような役割も担っています。</p> <p>地域の子育て支援団体との連携は、「栗っこネットワーク」の活動への参画です。特に、「栗っこふれあいまつり」では、児童館のクイズコーナー等の企画で、地域の方々に大変喜んでいただきました。</p> <p>移動児童館は宮城地区内の財団8児童館が、上愛子・大倉・作並小学校へ出向いて遊びの提供を行う合同事業ですが、今後も、各学校のニーズも勘案しながら、遊びの提供を行い、地域の子どもの健全育成を図ってまいります。</p> <p>改定した自由来館カードも好評で、卓球などが楽しめる「中高生タイム」のリピーターが増えました。今年度は、乳幼児親子の申込制行事の回数を増やし、「都合に合わせて利用できる」と、好評の声が寄せられました。遊戯室や砂場を活用し、特に2～3歳児の遊びの充実を図ってまいります。</p> <p>児童クラブは、縦割りグループを作り、上級生が朝の会の進行等の役割を担っています。今後は、自ら進んで挨拶や感謝の気持ちを伝えられるように支援したいと思っております。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>市民センター、社会福祉協議会、栗っこネットワーク、宮城コミュニケーション広場、保健福祉センター等、地域の子育て支援団体と連携を深めながら、子育て支援の充実に取り組んでいる。栗生児童館、広瀬マイスクール児童館、落合市民センターの3館合同で行う「親子であ・そ・ぼ」は、ダンスやものづくり等の活動を通して、乳幼児親子の交流の機会となっている。また、利用者の声を受けて乳幼児事業の見直しを図り、登録制の幼児クラブの代わりに自由参加の「年齢別行事」を充実させる取組みを行ったところ、参加者も増加し利用しやすくなったという感想もアンケートに寄せられている。さらに、児童館だよりでの案内に加えて、3か月ごとに乳幼児分をまとめたチラシを作成するなど、子育て家庭の支援に取り組んでおり、評価できる。館内の情報コーナーにあるリーフレットや子育て情報誌等は手に取りやすく配架されており、子育て関連情報の入手が容易である。</p> <p>「中高生タイム」を設定したり、来館した中学生に職員が声をかけたりするなど、児童館が中学生の居場所となる環境づくりに努めており、中学生の利用増にもつながっている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室